

実用新案登録願

昭和49年 9月 24

(1,500円)

特許庁長官 齋 藤 英 雄 殿

1. 考案の名称

電卓用電圧調整装置

2. 考案者

千葉県千葉市美浜区 4-4-29号
高橋 孝 氏



3. 実用新案登録出願人

千エウオウキヨウバシ
東京都中央区京橋2丁目5番地
株式会社 精工舎
代表取締役 浜野 清

4. 代理人

東京都渋谷区神宮前2丁目6番8号
(4664) 弁護士 最上 務
連絡先 563-2111 内線 222~5 担当 長谷川



5. 添附書類の目録

- (1) 明 細 書
- (2) 図 面
- (3) 委 任 状

1 通

1 通

1 通

49 115090

方 式 査
審



明 細 書

考 案 の 名 称 電 気 装 置 の 外 装 体

発 明 の 新 案 登 録 請 求 の 範 囲

電 気 装 置 の 外 装 体 に、プ ラ グ を 出 し 入 れ 可 能 な 開 口 と そ の 開 閉 蓋 と を 設 け、上 記 開 閉 蓋 に は プ ラ グ コー ド が 貫 通 可 能 の 穴 を 設 け、上 記 電 気 装 置 に 電 源 用 プ ラ グ コー ド を 接 続 し た ま ま、上 記 外 装 体 を プ ラ グ コー ド か ら 取 外 し て き る よ う に し た こ と を 特 徴 と す る 電 気 装 置 の 外 装 体。

考 案 の 詳 細 な 説 明

本 考 案 は 電 気 装 置 の 外 装 体 に 関 す る も の で あ る 。 商 用 電 源 を 用 い る 電 気 時 計 等 に お い て は 電 気 装 置 に 電 源 用 プ ラ グ コー ド が 接 続 さ れ て い る 。 し か し コー ド の 一 端 に は プ ラ グ が 予 め 取 付 け ら れ て い る か ら、外 装 体 に あ け た 穴 に コー ド を 挿 通 し た 後 で な け れ ば コー ド を 電 気 装 置 に 接 続 で き な い 。 ま た 修 理 を す る 際 に は 電 気 装 置 か ら 外 装 体 を 外 し

てもコードが外装体に挿通しているので、作業上外装体が邪魔であり、外装体が高級なものである場合には外装体を傷つける危険がある。そこで電気装置とコードの接続を外すか、あるいはプラグをコードから取外して外装体をコードから外すこともできるがこれには作業上手間がかかる。

本考案はこのような従来技術における欠点を除去しようとするものであり、プラグコードから簡単に外せるような電気装置の外装体を提供するものである。

以下本考案の実施例を図面を参照して説明する。

第1～3図を参照して、電気時計などの外装体1は弾性を有する合成樹脂よりなる。この外装体1の一隅にプラグを出し入れできる大きさの開口2が形成されている。この開口2の開閉蓋3が外装体1と一体的に形成されている。この開閉蓋3の支持部4は第2、3図示のように外装体1の板厚より薄く形成されており、前記のように外装体1、蓋3は弾性材より成るので蓋の開閉は自由である。この蓋3の上端には突状のつまみ5が形成

され、このつまみの中央部にはコードが貫通可能の穴 6 があけられ、さらにこの穴から上方へコード案内用の案内溝 7 が開いている。このつまみ 5 の案内溝 7 の両側の先端部 8 , 8 の外装体 1 の内側へ向けて外装体の板厚分延出して、その先端部には係止部 9 , 9 が形成されている。上記開口 2 の上方には上記外装体 1 から垂下する突起 10 が形成されている。この突起 10 は上記案内溝 7 に対応する大きさである。

外装体 1 内に収納されるべき電気装置にプラグコードを接続するには、まず電気装置にプラグコードを接続し、つぎにプラグコードのプラグを外装体 1 の開口 2 に通して外装体を電気装置に接続する。つぎにコードを案内溝 7 より穴 6 へはめ込む。そして最後に蓋 3 を閉じる。蓋 3 を閉じるにはただつまみ 5 を手で押せばよい。係止部 9 , 9 は突起 10 の両側部から外装体 1 内へ進入し、第 1 , 2 図示のように外装体と係合し蓋 3 は閉じた状態に保持される。この閉じた状態では開口 2 は蓋 3 で塞がれ、コードを挿通する穴 6 だけがあい



ている。また案内溝7は突起10によりほぼ塞がれる。また外装体1内に収納された電気装置の修理あるいは検査のため外装体をコードから外す必要があるときは、つまみ5を手でつまんで下方にたわむよう力を入れて引けば、係止部9,9は外装体1から外れるから蓋3が開けられる。つぎに丸穴6に挿通しているコードを案内溝7から外に引き出す。そこでコードをつぎつぎと引いていき最後にプラグの部分を開口2より引き出せば、外装体はコードから外される。

なお上記実施例において先端部8,8に係止部9,9を設けることなく、先端部が突起10とややきつく嵌合するように形成することにより蓋3の開鎖状態を保持するようにしてもよい。なお案内溝7を特に設けず、穴6を蓋3の端部へ開くような口字形に形成してもよい。

次に第4～6図を参照し他の実施例を説明する。

図面中第1～3図の実施例中に示されるものと実質的に同じ箇所は10を加えた参照符号で示している。この実施例では案内溝17の内側に傾斜



部 17a, 17a が設けてある。突起 20 の両側にはフランジ 20a, 20a が外装体 1 の外側面に沿って形成されている。

本実施例においては蓋 13 を開口 12 の方に押すと先端部 18, 18 は突起 20 の両側から外装体 1 の内方へ進入し、さらに押し込むと突起 20 のフランジ 20a, 20a は案内溝 17 の傾斜部 17a, 17a と接触し、ついには突起 20 はその両フランジ 20a, 20a 部分で案内溝 17 ときつく嵌合して、第 5 図示のように蓋 13 が閉じた状態を保持する。なお突起 20 にフランジ 20a, 20a を設けることなく、突起 20 と案内溝 17 との係合をややきつくなるように形成することにより蓋 13 を保持するようにしてもよい。

上述の構成をもつ本考案にかかる電気装置の外装体によれば、電気装置にプラグコードをあらかじめ接続しておいても外装体は簡単に装着あるいは取外しできるので、組立、検査あるいは修理がしやすく、外装体を傷つけるおそれがない。

図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第1図は一実施例の要部の斜視図、第2図は第1図Ⅰ-Ⅰ線断面図、第3図は蓋を開いた状態を示す断面図、第4図は他の実施例の蓋を開いた状態を示す斜視図、第5図は第4図の実施例の蓋を閉じた状態におけるV-V線断面図、第6図は第4図の実施例の蓋を閉じた状態におけるW-W線断面図である。

- | | |
|------------|-----------|
| 1 …… 外装体 | 2 …… 開口 |
| 3 …… 開閉蓋 | 4 …… 穴 |
| 1 1 …… 外装体 | 1 2 …… 開口 |
| 1 3 …… 開閉蓋 | 1 4 …… 穴 |

以 上

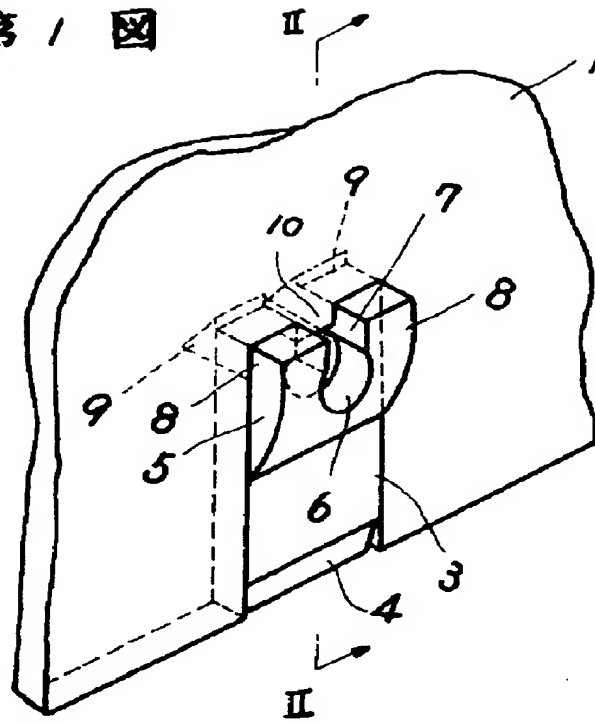
代理人

最 上

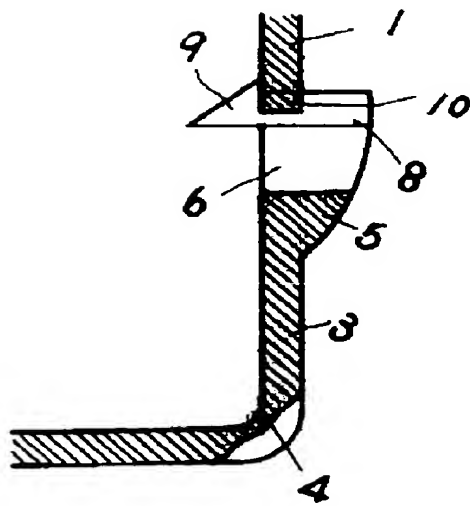
務



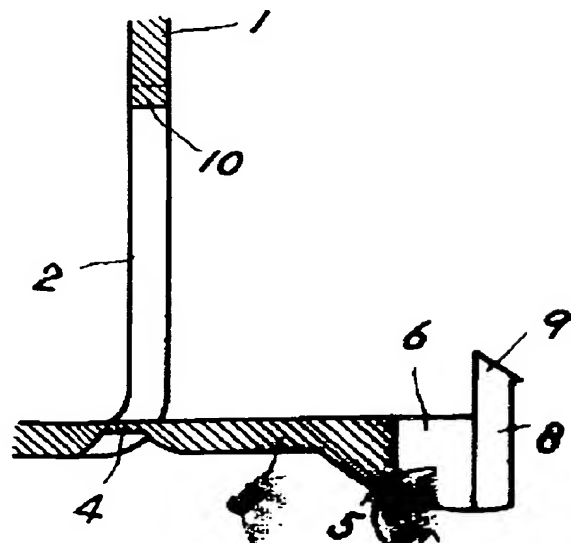
第 1 圖



第 2 圖



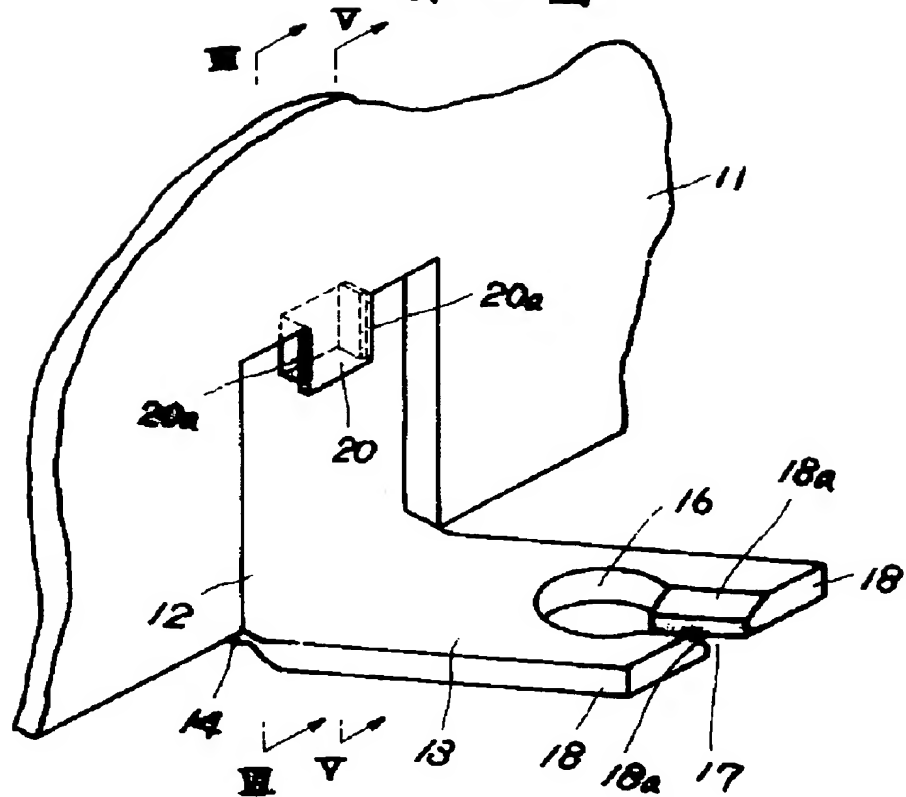
第 3 圖



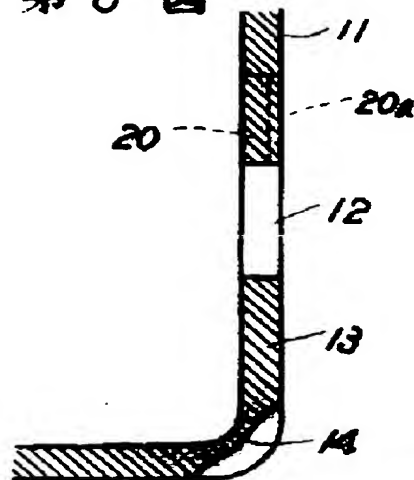
41667 1/2

實用新案登時出願人 株式會社 輪 上 合 夥
供 運 人 介 運 士 最 上 合 夥

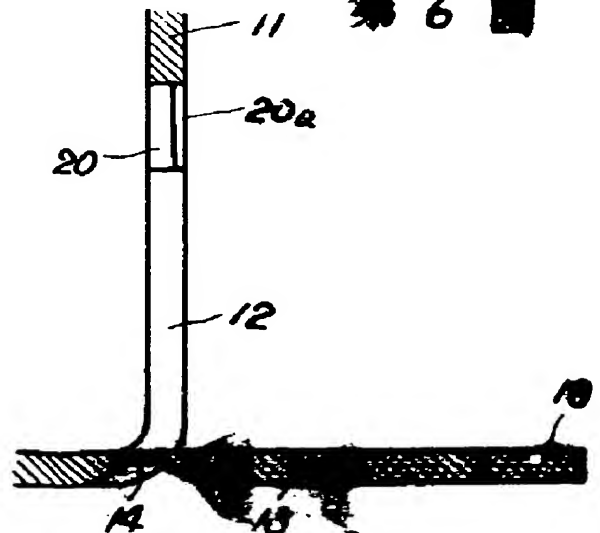
第 4 図



第 5 図



第 6 図



41667^{2/2}

発明者 佐藤 隆夫
代理人 佐藤 隆夫
上